請 負 工 事 検 査 基 準

（平成 16 年４月１日より運用）

（目的）

第１条　この基準は、枚方市請負工事検査要綱第６条に基づき、請負工事の検査に必要な事項を定める事により、厳粛かつ公平な検査の実施を図ることを目的とする。

（検査の内容）

第２条　検査は、当該工事の出来高を対象として、工事請負契約書、設計図書（仕様書、図面、現場説明書等）その他関係書類と照合し、工事の実施状況、出来形、出来栄え、について適否の判断を行うものとする。

（工事の実施状況の検査）

第３条　工事の実施状況の検査は、工事目的物の品質の良否を判断する上で不可欠であることから、出来形管理、品質管理その他実施状況に関する各種の記録（写真による記録を含む。）と設計図書等とを対比し、施工管理状況及び施工内容の適否の判断を行うものとする。

（工事の出来形及び出来栄えの検査）

第４条　工事の出来形及び出来栄えの検査は、工事目的物につき直接行うものとする。

ただし、外部からの観察、施工管理の状況を示す資料、出来形図、写真等により当該出来形の適否を判断することが困難な場合は、必要に応じて破壊、分解又は試験の方法により検査を行うものとする。

（工事種別による検査基準）

第５条　第３条及び第４条の規定による検査は、当該工事の工事種別に応じて、以下の土木工事又は建築工事等（建築工事、電気設備工事、機械設備工事をいう。以下同じ。）の検査技術基準に基づき行うものとする。

ただし、工事規模又は特殊性によりこの基準を適用することが不適当と判断されるときは、この基準によらないことができる。

土 木 工 事 検 査 技 術 基 準

（平成 16 年４月１日より運用）

請負工事検査基準第３条（工事の実施状況の検査）の検査留意事項は、以下の別表第１及び別表第２に掲げる事項とする。また、同検査基準第４条（工事の出来形及び出来栄えの検査）の検査は、以下の別表第３～別表第４に基づき行うものとする。

（別表第 1）

工事実施状況の検査留意事項（施工管理状況）

1　管理記録の整備状況

2　管理資料作成の時期

3　測定値の正確度及び規格値との関係

4　管理手順の適否

5　材料試験等設備状況及び施工管理要員の状況

6　試験、測定、撮影等に監督員の立会確認の程度

7　施工管理結果の現場工事への反映状況

8　施工管理に対する全般的確認程度

9　安全対策の状況

（別表第２）

工事実施状況の検査留意事項（施工状況）

項目		関係書類	内容
1	工事の監督	契約書、設計図書	工事監督の状況確認、立会及び指示承諾協議事項等の処理内容
2	工程管理	工程図表、実施工程表、工事出来高報告、工事打合せ簿	工事管理状況及び進捗内容
3	工事施工	施工計画書、承諾図関係	工法研究、施工方法及び手戻り（災害）に対する処置状況
4	支給品及び貸与品	支給、受理、使用、精算及び返納書、その他関係書類	支給、受理、使用及び返納の処理状況
5	工事材料、解体及び発生材	仕様書、工事材料検査願、解体及び発生材納入書等	工事材料、解体及び発生材の処理状況
6	立会・指示すべき施工及び調合	仕様書、工事打合せ簿、その他記録資料等	立会、指示すべき施工及び調合の状況
7	施工管理	仕様書、工事打合せ簿、その他関係法規等	現場管理状況、交通処理状況、安全管理の状況及び措置状況
8	後片付け	工事写真等	現場内の整理整頓及び清掃の状況

（別表第３）

出来形寸法

<table>
<tr><th colspan="4">工　　種</th><th>検　査　内　容</th><th>検　査　対　象</th></tr>
<tr><td rowspan="6">共
通</td><td rowspan="3">一
般
施
工</td><td rowspan="2">共通的工種</td><td>矢板工</td><td>基準高、偏心量、打込み長さ、延長</td><td>施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上</td></tr>
<tr><td>法枠工
吹付工
＊植生工</td><td>厚さ、法長、間隔、幅、延長</td><td>施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">石、ブロック積（張）工、のり張工</td><td>基準高、法長、厚さ、延長、天端幅
のり長、のり勾配、長さ</td><td>施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上
裏込コンクリート、栗石は 1000 ㎡毎に２箇所以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">コンクリート擁壁工
側溝工</td><td>基準高、幅、厚さ、高さ長さ</td><td>同種構造物について
施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">土工</td><td>基準高、幅、法長</td><td>施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上</td></tr>
<tr><td rowspan="6">河
川</td><td colspan="3">根固工</td><td>基準高、幅、厚さ、長さ</td><td>施工延長 500m以内は３箇所以上
施工延長 500m以上は４箇所以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">水制工</td><td>基準高、幅、厚さ、長さ方向</td><td>工種毎に適宜決定する</td></tr>
<tr><td colspan="3">床固工</td><td>基準高、幅、厚さ、高さ長さ、勾配</td><td>１工事について３箇所以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">築堤護岸</td><td>基準高、幅、厚さ、高さ法長、延長</td><td rowspan="2">施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">浚渫（川）</td><td>基準高、幅、深さ、延長</td></tr>
<tr><td colspan="3">樋門・樋管
水門</td><td>基準高、幅、厚さ、高さ延長</td><td>水門、樋門、樋管は、本体部、呑口部につき構造図の寸法表示箇所の任意分
函渠は、同種構造ごとに２箇所以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">砂
防</td><td colspan="3">砂防ダム</td><td>基準高、幅、厚さ、延長</td><td>構造図の寸法表示箇所の任意部分</td></tr>
<tr><td colspan="3">流路</td><td>幅、厚さ、延長</td><td>施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">斜面対策</td><td>基準高、幅、厚さ、高さ延長</td><td>施工延長 100m以内は２箇所以上
施工延長 100m以上は 50mにつき１箇所以上</td></tr>
</table>

工　種			検査内容	検査対象
ダム	コンクリートダム		基準高、幅、ジョイント間隔、提長	５ジョイントにつき１箇所以上
ダム	フィルダム		基準高、外側境界線	５測点につき１箇所以上
道路	道路改良		基準高、幅、厚さ、高さ 延長	施工延長100m以内は２箇所以上 施工延長100m以上は50mにつき１箇所以上
道路	舗装	路盤工	基準高、幅、厚さ、横断勾配	施工延長100m以内は２箇所以上 施工延長100m以上は50mにつき１箇所以上 厚さは、路肩より１mの箇所を左右千鳥にする。
道路	舗装	舗装工	基準高、幅、厚さ、横断勾配、平坦性	基準高、幅及び横断勾配は、施工延長100m以内は２箇所以上、施工延長100m以上は50mにつき１箇所以上 厚さはコアーにより施工面積1,000㎡以下３箇所、但し路線別とする。
道路	橋梁下部工		基準高、幅、厚さ、高さ スパン長	スパン長は、各スパンごと。 その他は同種構造物ごとに１基以上につき構造図の寸法表示箇所の任意部分
道路	橋梁上部工		部材寸法 基準高、支間長、中心間距離、キャンバー	部材寸法は主要部材について、寸法表示箇所の任意部分 その他は５径間以内は２箇所以上 ５径間以上は２径間につき１箇所以上
道路	コンクリート橋上部		部材寸法 基準高、幅、高さ、厚さ キャンバー	部材寸法は主要部材について、寸法表示箇所の任意部分 その他は５径間以内は２箇所以上 ５径間以上は２径間につき１箇所以上
道路	トンネル		基準高、幅、厚さ、高さ 深さ、間隔、延長	両坑口部のほか 施工延長100m以内は２箇所以上 施工延長100m以上は50mにつき１箇所以上
下水	函渠、管渠工		基準高、幅、厚さ、高さ 延長	施工延長 100m 以内は２箇所以上、施工延長100m以上は50mにつき１箇所以上 同種構造物ごとに実測する。
下水	人孔築造工		基準高、幅(内径)、厚さ、深さ、蓋、目地処理状況	マンホール１基ごと。
下水	管　渠 （推進工）		管径、基準高（管低高） 中心線の偏位 （水平方向）延長	管径は内径の変化点等で適宜実測する。 基準高は、各スパン毎に２箇所以上とする。中心線の偏位は適宜実測する。 延長は原則として施工延長を実測する。

工　　種		検　査　内　容	検　査　対　象
下水	管　　渠 （シールド工）	管径、基準高（管低高） 一次覆工の設置状態 中心線の偏位 　　（水平方向） 延長	管径、基準高は施工延長、200m未満は 3 箇所以上 200m以上 800m未満は 4 箇所以上 800m以上は200mにつき1箇所以上実測する。 一次覆工の設置状態は、セグメントの破損、組立状態を観察等により確認する。 中心線の偏位は適宜実測する。 延長は、原則として施工延長を実測する。 二次覆工厚は、脱型時に実測した施工管理記録を覆工計画と照合する。
その他構造物		工種に応じ、基準高、幅厚さ、高さ、深さ、法長、長さ等	同種構造物ごとに適宜決定する。
その他の工種		工種に応じ適宜実施する。	

備考　1　検査は実地において行うことを原則とするが、特別の事由により実地において検査できない場合、当該工事の主体とならない工種及び不可視部分については、出来形管理図表、写真、ビデオ、監督職員の確認資料及び品質証明書等により、検査することができる。

　　　2　施行延長とは施工延べ延長をいう。

（別表第４）

出来栄え（品質）

工　種	検査項目	検査対象	検査内容	検査方法
(1)共 通	出来栄え	適宜	仕上げ面、とおりすり付けなどの程度及び全般的な外観は良好か。	イ．主に観察により検査する。 ロ.必要に応じて実測する。
	構造物等の機能	適宜	構造物又は付属設備等の性能は設計図書と対比して適切か。	主に実際に操作してみて検査する。
	材　料	適宜	品質及び寸法は、設計図書と対比して適切か。	イ．観察又は品質証明により検査する。 ロ.必要に応じて実測する。
(2)土 工	イ．土質又は岩質 ロ．支持力又は密度	出来形寸法検査基準の検査対象に準ずる。	イ．土質、岩質、設計図書等と一致しているか。 ロ．支持力又は密度設計図書と対比して適切か。	イ．主に施工管理記録及び観察により検査する。 ロ.必要に応じて実測する。
(3)路盤工	イ．合成粒度又は岩質 ロ．支持力又は密度	出来高寸法検査基準の検査対象に準ずる。	イ．路盤材料の合成粒度は設計図書と対比して適切か。 ロ．支持力又は締固め密度は設計図書と対比して適切か。	イ．主に施工管理記録及び観察により検査する。 ロ.必要に応じて実測する。 ハ．試験成績書等
(4)セメントコンクリート工	コンクリートの強度	同　上	コンクリートの強度は、設計図書と対比して適切か。	同　上
(5)アスファルトコンクリート工法	イ．アスファルト使用量 ロ．骨材粒度 ハ．密度 ニ．打設温度	出来形寸法検査基準の検査対象に準ずる。	アスファルト使用量、骨材粒度、密度及び打設温度は設計図書と対比して適切か。	イ．主に既に採取されたコアー及び現地の観察並びに施工管理記録により検査する。 ロ.必要に応じて実測する。
(6)基礎工	イ．支持力 ロ．上部構造との関係	適宜	イ．支持力は、設計図書と対比して適切か。 ロ．基礎の位置、上部との接合等は適切か。	イ．主に施工管理記録及び観察により検査する。 ロ.必要に応じて実測する。

工　種	検査項目	検査対象	検査内容	検査方法
(7)薬液注入工	イ．注入材料 ロ．注入量 ハ．施工状況 ニ．水質試験	適宜	イ．注入材料は、設計図書、施工計画書と対比して適切か。 ロ．注入量は、設計図書、施工計画書と対比して適切か。 ハ．施工状況は、設計図書、施工計画書と対比して適切か。 ニ．水質試験は、設計図書、施工計画書と対比して適切か。	イ．施工計画書に基づき、注入材の種別を確認する。 ロ．自動記録計による記録表、注入日報に基づき、注入量を確認する。 なお、使用済みの容器、空袋等（工事記録写真）の確認をする。 ハ．施工状況と工事記録写真により確認する ニ．水質分析試験結果及び測定回数、期間を確認する。
(8)溶　接	1 非破壊検査 (1)外観検査	適　宜	溶接部の外観ビートの波形 アンダーカットの良否 オーバーラップの有無 プローホール、ピンホールの有無 亀裂の有無 スラグの巻込みの有無 クレーターの有無 喉厚は適当か。 脚長は適当か。 余盛の高さは適当か。 溶接ひずみの寸法のくるいはないか。	外観点検観察 外観点検観察 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
	(2)浸透深傷検査 (2)-1 染色浸透深傷検査（カラーチェック） (2)-2 けい光浸透深傷検査	適　宜	表面にある欠陥の有無	JIS による。
	(3)磁粉深傷検査	適　宜	表面にある欠陥の有無	JIS による。
	(4)超音波深傷検査	適　宜	内部にある欠陥の有無	JIS による。
	(5)放射線透過検査	適　宜	内部にある欠陥の有無	JIS による。

工　種	検査項目	検査対象	検査内容	検査方法
(8)溶　接	２破壊検査 (1) 引張試験 (2) 硬さ試験 (3) 衝撃試験 (4) 分析試験	適　宜	特に必要がある場合 引張強さ 降伏点強さ 硬度 化学成分	JIS による。
(9)塗 装	１材料検査	適　宜	塗料の規格、銘柄の良否 塗料の銘柄、数量の良否	塗料試験成績表で確認 カラー写真及び購入伝票の照合
	２素地検査	適　宜	ケレン種別の処理の良否	カラー写真等により判定
	３外観検査	適　宜	塗布回数の良否 塗装面の良否 塗膜厚さの良否	カラー写真等により判定 肉眼観察 膜厚計により計測する。
(10) 溶融亜鉛メッキ	１外観検査	適　宜	実用的に滑らかで不メッキその他使用上の有害な欠陥の有無	肉眼観察 手ざわり
	２付着量、均一性試験	適　宜		試験成績表で確認
	３密着性試験	適　宜		ハンマー試験
(11) その他構造物	適　宜	適　宜	適　　宜	適　　宜

建築工事等検査技術基準

（平成 16 年４月１日より運用）

請負工事検査基準第３条（工事の実施状況の検査）及び第４条（工事の出来形及び出来栄えの検査）の検査要点は、下記の共通検査要点（別表第１）及び工事別検査要点（別表第２～別表第６）に掲げる事項とする。

（別表第１）

共　通　検　査　要　点

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
中　間　検　査 既済部分検査 一部完成検査 完　了　検　査	1　特記仕様書記載事項の確認 2　設計図、施工図（承諾図書）の把握 3　施工計画書の確認 4　使用機器及び材料の適否、品質の適否 5　地下埋設箇所及び構造物の隠ぺい箇所等、完成後明視できない箇所の工事写真等による確認 6　現場内外の事故防止対策の適否 7　工事施工管理状況の適否（各種の施工管理記録資料の確認） 8　設計図書で指定された火災保険等の加入 9　廃棄物の処理（リサイクルの状況） 10　後片付け、清掃の適否	

（別表第２）

工事別検査要点

建　築　工　事

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
共　通　事　項	1　検査においては、設計書、施工図（原寸図、加工図等）を参照するが必要に応じ記録簿の確認を行う。 2　必要に応じ各種試験結果、関係法規報告書、日誌などを参照する。 3　竣工後、地中に没する等、出来形の確認が困難なものはその証となる物により確認する。 4　検査の結果、基準の範囲を外れたもの片寄りすぎているものについては手直し又は補足を命ずる。 　ただし、構造機能等支障ないものと判断し、さらに検査員がやむを得ないと認めたときはこの限りでない。 5　既存物の搬出、産業廃棄物の処理等後片付けについて確認する。	
仮　設　工　事　中	1　ベンチマークの保護状況の確認 2　足場、桟橋等の安全性の確認 3　仮設物（材料置場等）及び危険物貯蔵所の構造及び位置の確認	
土　工　事　中	1　根切り底、残土処理、余盛等の確認 2　埋戻し土の締固めの確認 3　山留め （1）構造及び安全の確認 （2）撤去後の周辺地盤の確認	現地観察及び工事写真

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
杭打工事中及び完了時	1　杭の本数、杭径、杭長、位置の適否 2　ベンチマークの確認 3　杭打関係資料の確認及び不良結果に対する措置の適否	
基礎コンクリートの配筋工事中	1　鉄筋がＪＩＳ製品であることの確認 2　基礎寸法及びかぶり厚さの確認 3　配筋の適否 4　コンクリート調合計画の適否 5　施工計画（仮設計画を含む）の適否	
躯体コンクリート工事中	1　型枠のケレン、補修の適否及び剥離材塗布の確認 2　配筋及び鉄筋の圧接、溶接の適否 3　スリーブ、穴あけ、箱入れの位置及び補強の適否 4　コンクリート養生方法の適否 5　型枠存置期間の確認 6　柱、梁、壁、スラブ、階高の寸法確認（コンクリート打設後の状態） 7　差筋の適否及び極端な台直し、ハツリ施工の適否 8　豆板に対する処理の適否 9　土間コンクリートの地業及び配筋の適否 10　コンクリート強度試験結果の確認 11　各施工承諾図の確認 12　コンクリート打継目の位置の確認	試験結果の確認
木造、鉄骨造の建方完了時	1　各高さ、幅、間隔、部材寸法及びと通りの確認 2　材質の適否 3　（木造）釘、ボルト、金物の有無と締付けの確認 （鉄骨造）ハイテンションボルトの本数と締付けの確認 4　防腐剤（木造）防腐塗料の確認 （鉄骨造）塗布の確認	

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
仕　上　工　事　中	1　屋根工事（木造、鉄骨造）又は屋上防水工事材質及び工法の適否、特に特殊防水にあっては、メーカー及び補償期間の確認 2　木工事（雑作） （1）材質の確認 （2）材面仕上げ程度の適否 （3）防腐処理及び防虫処理等の確認 3　組積工事 （1）材質の確認 （2）他部分との取り合せ、接合の適否 4　金属工事 （1）材質、部材寸法の確認 （2）手摺の安全性の確認 5　建具工事 （1）メーカーの確認、防錆塗装の適否 （2）補強板アンカーとの接合及び枠回り、モルタル充填の適否 （3）材種、規格，形状、寸法の確認 6　左官工事 （1）使用材料の適否 （2）下地処理（歪み、浮き、不陸等の補修）の確認 （3）塗り層、塗り厚の確認 （4）浮き、割れ等の確認 （5）水を使用する床の水勾配の適否 （6）庇等の水切り施工の適否 7　塗装工事 　　素地ごしらえの適否 8　タイル工事 （1）タイルの浮き、割付具合、目地幅、平滑度色斑等の適否 （2）床タイル、排水勾配の適否 9　その他工事 （1）使用材料の確認 （2）内装工事の下地組立の適否 （3）点検口、換気孔の確認 （4）設備工事との組合せの確認	

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
完　了　検　査	〔外部〕 1　外壁の浮き、割れ、色むらの有無の確認 2　竪樋の品質、径、取付毛、支持金物の適否 3　天井、床下換気孔の数、寸法の確認 4　犬走りの寸法及びコンクリート厚の確認 5　窓回り等のコーキングの適否 6　雨水処理の適否 7　建物周囲の整地、現場内の片付け及び清掃の適否 〔内部〕 1　左官工事 （1）仕上げ程度の適否 （2）割れ及び浮きの有無の確認 2　塗装工事 （1）塗り回数の確認（色層、色調） （2）仕上げ程度の適否（刷毛むら、色むら） （3）隅部、裏面等の塗残しの有無の確認 3　タイル工事 （1）浮き、ひび割れ等の確認 （2）屋外のタイル張り等の打診による確認 4　建具工事 （1）建付けの適否 （2）開閉状況の適否 （3）付属金物の確認 （4）木製建具の反りの有無及び寸法の確認並びに嵌め込の適否 5　ガラス工事 （1）ガラスの種類、厚さの確認 （2）留め材の適否 6　内装工事（帖りもの） （1）品質の適否 （2）不陸、浮き、見切り、目地通り等の適否 7　雑工事 （1）造り付け戸棚、流し等の各所寸法、取付け、仕上げの適否 （2）黒板、掲示板等の取付け、損傷の有無の確認 （3）その他、図面、内訳明細書等により位置、数量、寸法、納まり等の確認 8　舗装工事 （1）路床、路盤の確認 （2）舗装工の材種の確認及び基準高、幅、厚さ、勾配の適否	

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
完　了　検　査	9　排水工事 （1）排水桝の位置及び仕上げの適否 （2）排水管路の勾配及び材種の確認 10　植栽工事 （1）材種、規格、寸法、数量の適否 （2）樹木、支柱等の形状及び寸法の適否 11　その他 （1）各法令による手続、検査の実施確認 （2）安全性、使用者の利便性の適否	

（別表第３）

工事別検査要点

電　気　設　備　工　事

区　　分	検 査 の 要 点	備　　考
基礎・躯体 コンクリート 配筋工事中	1　スリーブ・箱入れ・穴明けについて大きさ・位置・補強の適否 2　引込配管の施工及び他の設備関係との適否 3　各種資材選択の適否（業者提出メーカーリストと照合）	
仕上工事中	〔屋外〕 1　地中埋設配管施工の適否 2　建柱施工の適否 〔屋内〕 1　隠ぺい・埋設配管の施工及び他の設備関係との適否 2　盤・ボックス類の取付け位置・施工の適否 3　受・変・配電機器の仕様確認と据付け・施工の適否	地盤沈下対策の適否

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
完　了　検　査	〔屋外〕 1　ハンドホール・マンホールの位置・数量の確認及び施工の適否 2　構内架空線施工の適否 3　屋外灯の仕様・接地の確認、点灯テストの実施及び各種試験結果の確認 〔屋内〕 1　照明器具・コンセント類の品質・数量・取付けの適否、点灯テスト等の実施及び各種試験結果の確認 2　火災報知設備・放送等弱電設備の取付け適否及び機能試験等の確認 3　盤・ボックス類の取付位置・施工の適否、結線図・回路表示・遮断容量の確認 4　防火区画貫通処理の確認 5　電力線と通信線の隔離の確認 6　接地線取付けの確認 7　各制御機器と他の設備工事との連繋動作テストの実施 8　接地抵抗・絶縁抵抗等は測定結果の確認 9　建築工事との関係・補修の適否 10　法令による手続き・検査の実施確認 11　官公庁及び電力会社の申請・検査結果確認 12　完成図・各機器保証書・取扱説明書・付属品・予備品等の確認 〔総合〕 1　安全性・衛生面から見直す。 2　設備は風圧・耐震計算書どおりか。 3　他工事等との取合いは適切か。 3　保守管理が容易か。 4　降雨或いは使用したとき設備に水が溜まらないか。 5　使用する立場で見直す。	 防水仕様のものに注意

（別表第４）

工事別検査要点

機　械　設　備　工　事

①　給排水衛生設備工事

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
基礎・躯体 コンクリート 配筋工事中	1　スリーブ・箱入れ・穴明けについて大きさ・位置・補強の適否 2　地下・床下配管の品質・寸法の適否及び接続・通り・養生等施工の適否 3　埋設配管の埋戻し土、埋戻し施工の適否 4　地盤沈下対策の適否 5　他の設備関係との適否	
仕上工事中	〔屋外〕 1　屋外給排水管の材質・寸法・埋設深さの確認 2　埋設配管方法（防蝕処置）の適否 3　排水管路勾配の適否 〔屋内〕 1　支持金物取付けの適否、ガタつきの有無確認 2　排水管路勾配の適否 3　天井・床等への納まりについての適否 4　床勾配に対する床排水の位置の確認 5　壁埋込み箇所の施工の適否 6　防露・保温被覆施工の適否 7　建築エキスパンション部の配管施工の適否 8　防火区画貫通配管の法的処置の適否 9　防水層貫通部の処理方法の適否 10　パイプスペース内配管の納まりの適否 11　上水、処理水等配管のクロスコネクションの確認 12　排水管の満水、通水テスト結果の確認 13　給水管・ガス管の圧力・気密・漏洩テスト結果の確認 14　調整弁類と点検口との関連の適否 15　電気配線・ガス配管との接近・交差について保安対策の適否 16　高架水槽の形状・寸法・梁補強・据付けの適否 17　汚水処理の試運転・性能記録結果の確認	

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
完　了　検　査	〔屋外〕 1　排水管路の勾配、桝の位置・数量・寸法・仕上げの適否及び通水・漏水テストの記録確認 2　各管路・バルブ等の確認、埋戻し・復旧の適否 3　建物等との関係及び補修の適否 4　受水槽・浄化槽施工の適否及び試運転或いはテスト結果の確認	マンホール蓋の防水処理に注意
	〔屋内〕 1　消火栓・ボックス・盤類・水栓・バルブ・衛生陶器・排水金物等の仕様確認、取付けの適否 2　機器の据付及び防振、防音対策の適否 3　機器の調整及び通水・排水の適否 4　上水受水槽の保守点検スペースの確認 5　水槽類の内部塗装・浸水防止・施錠等安全対策の適否 6　換気扇・排気筒の仕様確認と取付けの適否 7　鋳鉄製蓋の仕様確認及び納まりの適否 8　管の系統・バルブ切替え表示の適否 9　建物への納まり及び補修の適否 10　各部防錆・仕上げ塗装の適否 11　給水管・ガス管の圧力・気密テスト結果の確認 12　法令による手続き・検査の実施確認 13　完成図・取扱説明書・各機器の保証書・付属品・予備品等の確認	ガス使用室の換気に注意
	〔総合〕 1　安全性・衛生面から見直す。 2　各種資材の選択は適切か。（メーカーリストと照合） 3　電気設備工事等との取合いは適切か。 4　設備は風圧・耐震計算書どおりか。 5　保守管理が容易か。 6　降雨或いは使用したとき設備に水が溜まらないか。 7　全体的な美観や機能性について判断する。 8　使用する立場で見直す。	

② 空 調 設 備 工 事

区　　分	検 査 の 要 点	備　　考
基礎・躯体 コンクリート 配筋工事中	1　機器基礎、シンダー内埋設配管、電線管の施工の適否 2　重量機器の床下補強の適否 3　据付アンカー施工の適否 4　スリーブ・箱入れ・穴明けについて大きさ・位置・補強の適否 5　他の設備関係との適否	
仕上工事中	〔屋外〕 1　配管・ダクトの材質・寸法・支持・取付けの適否 2　埋設配管方法（防蝕処置）の適否 3　オイルタンクの形状・寸法の確認、据付け・埋設施工の適否 4　屋外機器の据付け、防振対策の適否 5　ドレン配管の勾配、施工・接続方法の適否 〔屋内〕 1　配管・ダクトの材質・寸法・支持・取付けの適否 2　保温、塗装（防錆）施工の適否 3　冷媒管・冷温水管の気密・水圧テスト結果の確認 4　ダンパー・点検口の位置の適否 5　機器、ダクトの防振対策、据付けの適否 6　各機器用コンクリート基礎の寸法・形状・施工の適否	消防検査済の確認

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
完　了　検　査	1　冷凍機器・ボイラー類・ポンプ類・自動制御機器等各種機器の仕様確認、据付けの適否、調整及び試運転結果の確認 2　風量・温湿度測定結果の確認 3　性能の設計数値と施工後測定結果との比較 4　吹出・吸込口の形状・寸法・調整装置等の適否 5　各配管･ダクト･機器等塗装の適否及び建築関係との適否 6　各種ダンパーの設置状態の適否 7　機器の名称、記号の記入の確認 8　配管、ダクトの識別、用途、流れ方向の記入の確認 9　埋戻し・復旧・補修の適否 10　法令による手続き・検査の実施確認 11　完成図・取扱説明書・各機器保証書・付属品・予備品等の確認 〔総合〕 1　安全性・衛生面から見直す。 2　異常な騒音・振動が発生していないか。 3　各種資材の選択は適切か。（メーカーリストと照合） 4　電気設備工事等との取合いは適切か。 5　設備は風圧･耐震設計書どおりか。 6　保守管理が容易か。 7　降雨或いは使用したとき設備に水が溜まらないか。 8　全体的な美観や機能性について判断する。 9　使用する立場で見直す。	工場検査・現場テスト結果の資料による。

③ 昇降機設備工事

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
建　設　中	1　スリーブ・箱入れ・穴明けについて大きさ・位置・補強の適否 2　支持梁へのレール取付寸法・形状の確認 3　昇降路の構造・寸法・頂部すき間・ピットの深さの確認 4　駆動装置・受電盤・制御盤等の仕様、形状・寸法確認 5　他の設備との適否	
完　了　検　査	1　設計図書・施工管理記録・施工図等と対比して観察・実測値を確認 2　安全装置の確認（試運転による動作確認を含む） 3　運転操作方式、地震時・火災時・停電時等の管制運転の確認 4　設計図書で示された付加仕様の適否 5　ＪＩＳ・Ａ４３０２（昇降機の検査標準）に準じた判定基準による適否 〔総合〕 1　安全性・衛生面から見直す。 2　各種資材の選択は適切か。（メーカーリストと照合） 3　設備は耐震設計書どおりか。 4　保守管理が容易か。 5　利用者の立場で見直す。	

（別表第５）

工事別検査要点

ごみプラント設備工事

区　分	検査の要点	備　考
基礎・躯体コンクリート配筋工事中	1　スリーブ・箱入れ・穴明けについて大きさ・位置・補強の適否 2　機器基礎、シンダー内埋設配管・電線管の施工の適否 3　据付アンカー施工の適否 4　重量機器の床下補強の適否 5　地下・床下配管の品質・寸法の適否及び接続・通り・養生等施工の適否 6　他の設備関係との適否	
建設中	1　各種資材搬入工程管理と搬入ルートの安全管理の適否 2　工場製品・施工図・施工要領等承諾の適否 3　現場搬入機器及び材料の保管状況 4　設備の設計計算書有無の確認 5　鉄骨建方と建築関係寸法の適否 6　火格子、耐火物施工の適否 7　炉体・ダクト類外形と建築関係寸法の適否 8　炉体等各種ケーシング気密性の確認 9　搬入機器の寸法・材質・銘板確認 10　回転機の据付けは、結合種類に拘らず精密に行われているか。 11　回転機と配管の接続は、フレキシブル管を使うときでも通り芯が正確であるか。 12　各機器の据付及び防振、防音対策の適否 13　各種配管・ダクトの材質・寸法・支持・取付けの適否 14　断熱・保温・コーキング施工の適否 15　ガス洗浄塔、ダクト内部のライニング施工の適否 16　作業用通路は突起物等がないか。 17　作業用段階は充分なラップがあるか。 18　管路・弁・桝の位置・数量・寸法・仕上げ・埋戻し・復旧の適否 19　排水管路勾配の適否及び通水確認 20　管路系統・切替え表示の適否 21　各部防錆・塗装の適否 22　建物等補修の適否	

区　　分	検　査　の　要　点	備　　考
完　了　検　査	1　各機器の仕様確認・据付けの適否 2　各機器の無負荷・負荷試験或いは結果確認 （電圧・電流・異音・異臭） 3　回転機の振動・異音有無の適否 4　回転機の特性(流量・圧力)及び弁操作による異音有無の適否 5　総合試験（ごみ cal・焼却量・蒸気発生量・発電量・公害規制項目の測定値等）或いは機器単体試験の実施確認 6　点検補修工事における各設備（受入供給・燃焼・排ガス冷却・排ガス処理・通風・灰出し・電気・計装等）の点検結果報告書の確認 7　法令による手続き・検査の実施確認 8　完成図・取扱説明書・各機器の保証書・付属品・予備品等の確認 〔総合〕 1　安全性・衛生面から見直す。 2　点検補修工事においては、ダイオキシン類ばく露防止対策が関係法令・通達に基づき適切に施工されたか。 3　各種資材の選択は適切か。（メーカーリストと照合） 4　設備は設計計算書どおりか。 5　保守管理が容易か。 6　降雨或いは使用したときは設備に水が溜まらないか。 7　使用する立場で見直す。	

（別表第６）

工事別検査要点

下水プラント設備工事

区　　分	検 査 の 要 点	備　　考
基礎・躯体コンクリート配筋工事中	1　スリーブ･箱入れ･穴明けについて大きさ･位置･補強の適否 2　機器基礎、シンダー内埋設配管・電線管の施工の適否 3　据付アンカー施工の適否 4　重量機器の床下補強の適否 5　地下・床下配管の品質・寸法の適否及び接続・通り・養生等施工の適否 6　他の設備関係との適否	
建　設　中	1　各種資材搬入工程管理と搬入ルートの安全管理の適否 2　工場製品・施工図・施工要領等承諾の適否 3　現場搬入機器及び材料の保管状況 4　設備の風圧・耐震計算書等有無の確認 5　機器基礎と建築関係寸法の適否 6　機器外形と建築関係寸法の適否 7　防水を要する室の防水確認 8　搬入機器の寸法・材質・銘板確認 9　回転機の据付けは、結合種類に拘らず精密に行われているか。 10　機器の据付及び防振、防音対策の適否 11　各種配管・ダクトの材質・寸法・支持・取付けの適否 12　回転機と配管の接続は、フレキシブル管を使うときでも通り芯が正確であるか。 13　作業用通路は突起物等がないか。 14　作業用段階は充分なラップがあるか。 15　管路・弁・桝の位置・数量・寸法・仕上げ・埋戻し・復旧の適否 16　排水管路勾配の適否及び通水確認 17　管路系統・切替え表示の適否 18　各部防錆・塗装の適否 19　建物等補修の適否	

区　　分	検査の要点	備　　考
完　了　検　査	1　各機器の仕様確認・据付けの適否 2　各機器の無負荷・負荷試験或いは結果確認 （電圧・電流・異音・異臭） 3　制水扉等の全開・全閉時間の確認・異音の有無 4　沈砂池機械等の１工程にかかる運転時間・異音の有無 5　回転機の振動・異音有無の適否 6　回転機の特性(流量・圧力)及び弁操作による異音有無の適否 7　総合試験或いは機器単体試験結果の記録確認 8　法令による手続き・検査の実施確認 9　完成図・取扱説明書・各機器の保証書・付属品・予備品等の確認 〔総合〕 1　安全性・衛生面から見直す。 2　各種資材の選択は適切か。（メーカーリストと照合） 3　設備は設計計算書どおりか。 4　保守管理が容易か。 5　降雨或いは使用したときは設備に水が溜まらないか。 6　使用する立場で見直す。	